

2022年2月8日

(質問者 1)

- ① SBIグループとの今後のシナジー効果を期待する話があった。SBIグループの一員になるにあたり、新生銀行からマネックス証券に移管した投資信託はどうしていくのか。新生銀行のホームページでSBI証券の窓口も設定するべきではないか。

(回答：議長)

マネックス証券とは、お客様との接点は新生銀行が引き続き持たせていただく前提で、投資業務に関わるミドル・バック業務に関する個別分野での業務提携をしている。個別分野では他にもさまざまな提携をしており、今後も取り組んでいく予定である。ウェブサイトの連携については、今後、SBI証券とのシナジーを発揮するさまざまな取り組みを展開していくことになるが、その一環として検討していくことになると思う。

(回答：顧問)

SBIグループは創業以来顧客中心主義を大前提としている。その観点から、新生銀行グループのお客様に対してもいかに便益性の高い商品・サービスを提供していくかが肝心である。一方で、マネックス証券との間で結んだ契約事項もあるので、それに反することのない範囲で、いかにお客様に多様な選択肢を提供していくかが重要と考えている。いただいたご意見を参考にして、今後の展開を検討していきたい。

(質問者 2)

- ① 投資に興味を持ち新生銀行をメインバンクとしてサービスを利用しようとした。しかしながら投資信託商品が少なく、株取引などの金融商品と口座の連携が弱い印象のため、別の会社の口座で取引している。今後SBIグループとの経営統合されるなかで、どのように改善していくのか。

(回答：議長)

銀行の資産運用ではリスクを取らない保守的なお客さまが伝統的に多かった、という経緯もあり、株式関連商品を個人のお客様に提供するサービスは、グループ内で弱かったと認識している。その商品力の強化の一環が、マネックス証券との連携である。今後は、SBIグループのさまざまな機能を活用した商品提供に注力していくのが、シナジー発揮の一環だと思っている。

(回答：顧問)

個人金融資産が2千兆円に迫る中において、個人のお客様の金融取引全般についていかにグループ全体でお手伝いできるかが大事である。SBIグループの中核的な銀行になるということは、SBI証券の機能を皆さんにご利用いただく機会も提供できることになる。また、今いただいたようなご意見を、株主総会の場合だけではなく、日常的にお客様の要望を汲み取れるような仕組みを考えていきたい。

(質問者 3)

- ① 公的資金返済には株価を上げる必要があると理解しています。金融庁の指導や日本のカルチャーのもとでは、株価を、公的資金返済を実現可能とする水準にまで上げるのは不可能だと思っている。経営陣として公的資金返済に対して、実現可能性や真剣度について伺いたい。

(回答：議長)

公的資金は優先株式から普通株式に転換されているため、公的資金を返済するには国が期待する返済金額を満たす水準の株価にする必要がある。公的資金は要返済額が決まっているため、まずは返済原資を貯め、次に株式の価値を上げていくというステップを経ると考えている。道のりが近いとは思っていないが、返せないと思いながら取り組んでいるわけではない。

(回答：顧問)

大変厳しいご意見と受け止めている。今後、公的資金を返済する大義の元に、我々は誠心誠意業務に邁進していく所存である。公的資金返済の方法論・技術論については、これまで以上に深く、多面的に検討する必要があると考えている。その前提としては、収益力を高め、企業価値を向上させ、公的資金の返済原資を積み上げることが最重要と認識している。

(質問者 4)

- ① 平沢取締役のご挨拶が聞きたい。佐々木取締役だけが再任される理由を教えてください。新生銀行出身の取締役がいなくなることについて、今回の取締役選任の理由を教えてください。

(回答：議長)

平沢取締役は管理部門全般を見る立場にあり、取締役会の構成として私を補ってバランスを取っていただいていた。一般的な経営体制の見直しをおこなう中で、今回新生銀行出身の取締役が全員退任するが、今年の6月定時株主総会で、改めて新生銀行の業務執行から取締役が1名選任される予定が表明されており、業務執行の継続性は保たれると理解している。

なお、平沢取締役は取締役を退任するが、業務執行における管理部門全般の管掌という役割は引き続き担うため、経営の連続性を維持するのに十分な対応であると考えている。

佐々木取締役に関しては、取締役会を繋ぐ役割を担って頂きたいと考え、本人からもご了解いただいた次第である。

(回答：平沢)

工藤社長と共に昨年6月以降、業務執行取締役として従事してきた。新生銀行出身者も含めた最適な人員配置を、6月以降に構築することを目指している状況であり、今回の選任議案については、経過措置として受け止めていただきたい。

以上